

「NHK低線量被ばく問題報道番組への抗議顛末」

平成 24 年 9 月 25 日

金氏 顯(かねうじ あきら)

エネルギー問題に発言する会代表幹事

1. はじめに (昨年 12 月 28 日放映 NHK 番組)

東電福島原発事故後の地元復旧対策は国際放射線防護委員会 (ICRP) の防護基準を拠り所としている。これに対し、NHK は昨年末の 12 月 28 日のゴールデンワーカーに放映した番組『追跡！真相ファイル「低線量被ばく 揺れる国際基準」』で、次のような誤ったメッセージを視聴者に送った。

①前半のスウェーデンや米国イリノイ州での取材では、放射線被ばくの数値と、ガンや脳腫瘍発病等との明らかな因果関係は証明されていないにもかかわらず、被害者側の訴えのみを取材して、NHK番組では「ICRPがほとんど影響がないとしている低線量でも、ガンになる人が増えていたのです」などと断言した虚偽のナレーションを流し、捏造とも言える印象操作をしている。

②後半ではICRP関係者の発言 (英語) をNHKの意図に合うような日本語に改ざんしたり、ICRPは実際には防護基準を厳しくしているのに緩くしたと意図的に虚偽の内容にした箇所が多々ある。これらの詳細については、下記のBPO審議要求文書に説明している。

(提訴状) http://www.engy-sqr.com/media_open/index.htm

③最後に、番組にレポーターの女性作家が「ICRP 自体が原発を進めたい側がつくった組織だから、安全規制値を決めてはいけないわけですよ」と発言し、同席のNHK解説者も肯いている。しかしICRP の運営資金の5つの主要な拠出組織はいずれも規制組織もしくは直接原発推進に係らない組織である。NHKの虚偽の解釈に基いた女性作家の発言はICRPの権威を貶め、視聴者に重大な誤解を与えた。

2. NHK 会長への抗議文提出 (今年 1 月 12 日)

この番組を見た多くの会員からの連絡に基づき抗議文を起草し、112名の会員の賛同を得て、今年1月12日付けでNHK松本正之会長と同番組のチーフディレクター宛に郵送した。同時に私たち団体のホームページにも公開した。

(NHK 会長への抗議文) http://www.engy-sqr.com/media_open/index.htm

3. 意見交換における NHK の不誠実な対応 (今年 2 月～5 月)

郵送後 2 週間経った 1 月 26 日に NHK チーフディレクターから電話で、意見交換したいとの連絡があった。意見交換会は、NHK 社会報道部の部長以下制作担当 4 人と 2 月 8 日、3 月 5 日、4 月 25 日の計 3 回行なった。NHK は私たちの放送倫理基本綱領違反の指摘、虚偽・捏造・誤訳の指摘に対しても、納得のいく誠実な回答は得られず、住民に不安を煽ったことへの反省もみられなかった。そして 3 回目には番組ナレーションの言葉とこれまでの NHK の説明との明らかな矛盾を指摘し、公開を前提とした回答を要求したが、5 月 10 日に NHK より回答拒否の連絡がきた。

私たちの抗議以外にも ICRP 日本委員の丹羽太貫先生、京大原子物理学 OB の NPO あいんしゅたいん坂東昌子理事長も NHK に抗議している。しかし NHK はいずれにも誠実な対応はしていない。

4. 放送倫理・番組検証機構への提訴 (6 月 28 日)

そこで、次は放送倫理・番組検証機構 (BPO) の放送倫理検証委員会にて審議していただくこととした。改めて提訴資料を作成し、137 名の賛同会員の氏名を記して、6 月 28 日に BPO 事務局に郵送した。この番組が社会に悪影響を与えている証拠として、今年 5 月に富山駅前で俳優山本太郎氏が東北の瓦礫受け入れ拒否運動で配布したチラシ (「NHK 番組で、ICRP には何の科学的根拠もないことが報道された」と記載あり) も添付した。

(提訴状と添付文書) http://www.engy-sqr.com/media_open/index.htm

BPO に審議要求したあと 2 ヶ月半経った 9 月始めに事務局に電話で問い合わせた結果は、ICRP への調査権限がない、との理由で委員会では審議しないことになったとの回答であった。スウェーデンやアメリカイリノイ州の取材箇所についての虚偽報道についての見解を聞いたが、事務局であり委員ではないのでお答えできない、とのこと。あとは裁判しかないが、NHK 相手に裁判など不可能なので諦めるしかない。

(注) この抗議活動は、エネルギー会のほか、原子力学会シニアネット連絡会 (齋藤伸三会長)、エネルギー戦略研究会 (金子熊夫会長) の 3 団体の有志会員が行なっている。特別検討チームの主要メンバーは、石井正則、河田東海夫、齋藤修、松永一郎と筆者の 5 人のシニア技術者である。